

週刊センターニュース

No.133



第133号(2006年11月6日)毎週月曜日発行
発行: 金沢大学 大学教育開発・支援センター
URL: http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daikyou_rche/index.htm

「第135回共同学習会」開催案内

日時: 11月9日(水) 16時30分~18時

場所: 角間キャンパス総合教育棟2階大会議室

テーマ: 「教員組織改革の動向 我が国法・経・商学系の教員組織の改革方向を基に」

報告者: 早田 幸政(大学教育開発・支援センター)

趣旨: 大学教育開発・支援センターは、これまで実質的受け皿となって、文部科学省<先導的大学改革推進委託>にかかる経費に基づき、教員組織、教員の所属組織に関する改革動向の調査を行ってきた。

そして、これまでに、わが国大学全体の改革動向について、本共同学習会等で報告を行ってきたところである。今回は、やや視点を変え、法・経・商学系の教員組織の改革動向を探るという問題意識の基づき、教員組織改革の現状と課題について報告する。

「第1回石川県聴覚障害学生情報保障講習会」開催報告

日本学生支援機構北陸支部と当センターとの共同主催による標記講習会(後援: 大学コンソーシアム石川、石川県教育委員会、協力: 石川県聴覚障害者協会、金沢市聴力障害者福祉協会)が、10月22日(日)13時より、「いしかわシティカレッジ」(市内広坂)を会場に開催されました。参加者は約40名でした。第一部: 情報保障に関する講演会では、白澤麻弓・筑波技術大学助教授による「聴覚に障害のある学生への支援の現状と課題」と山村信平・金沢市聴力障害者福祉協会理事(要約筆記対策)「教育において必要とされる情報保障」の二つの講演があり、第二部: ノートテイクの体験談と実技講習では、大楠航一郎・金沢大学理学部学生「ノートテイクによる情報保障を受けて」、本部かの子・金沢大学文学部学生「ノートテイクとして活動して」の後、堀口佳子・石川県聴覚障害者協会要約筆記指導部員による、聴覚障害の疑似体験を含むノートテイクの実例紹介が行われました。

企画の時に当センターが考えていたのは、情報保障の手段としてのノートテイク、学生による学生の支援としてのノートテイク制度の北陸地域での普及であり、切れ目のない学習支援としての高大連携の提言という狙いもありました。山村さんのご講演では、実体験から、<情報保障が如何に聴覚障害者にとって不可欠なものであるか、という最も大事なことの指摘でした。具体的には、学校での学習支援を目的とすることが重要な契機となるにせよ、ノートテイクはその手段にとどまるのではなく、そこで啓かれる社会性こそが重要だ>でした。聴覚に障害のある学生だけでなく、全ての学生にとっての真の意味での情報保障の重要性=そもそもなぜ大学が必要なのか、大学という空間、学びの場が人間の成長にとってどれほど必要なのか、ということを再度気づかせてくれる内容でした。

障害学生支援を含む学生支援は、これからのすべての大学教員にとっての必須の知識といえます。当センターとしては、これからも情報共有の機会を提供し、学生支援の質向上に努めていきます。

最後になりましたが、報告を担当してくれた、大楠君と本部さん、そして、日曜日にも関わらずご参加くださいました、本学教員および学生の皆様に御礼申し上げます。

(文責：教育支援システム研究部門 青野 透)

大学教育学会課題研究集会のシンポジウム紹介

今回は、シンポジウム「教員の所属のあり方とカリキュラム」(11月26日 13時15分～15時45分)について紹介いたします。このシンポジウムの主旨は次のとおりです。

主旨：昨年7月の学校教育法改正により「教員の職」に関する制度変更がなされ、本年3月の大学設置基準改正では、「講座/学科目制」規定削除および、教員間の適切な役割分担等に関わる規定新設があった。こうした高等教育制度の転換が、カリキュラム改革を含む大学教育改革にどう結びついていくのか、議論を深めていきたい。なお、本シンポジウムは平成17年度・18年度の文部科学省委託「今後の『大学像』の在り方に関する調査研究：教員の所属組織」事業による経過報告の一部をなすものである。

他の4つのシンポジウムに係るテーマはいずれも、大学教育学会において研究課題に位置づけ(研究委員会の設置を含め)、ここ数年間継続して重点的に検討が施され、6月に開催される学会および秋に開催される課題研究集会で、関係者により発表がなされてきました。平成20年を目標に3学域への再編・統合が進められる本学で、この度課題研究集会を開催することを絶好の機会と捉え、標記テーマのシンポジウムを今回設定することで、学会員のみならず、金沢大学の教職員の皆様が、教員(大学)組織のあり方、さらにカリキュラム編成等にかかる具体的方策について改めて捉え直し、意見交換を通じ一緒に考えていく貴重な場になることを願っております。

シンポジウムは、本学関係者を中心に報告がなされることになっています(司会は、早田幸政副センター長)。工藤潤氏(大学基準協会)からは、新制大学発足時の講座制に関する論議とその制度化、審議会答申等における講座制に関わる提言と制度改正の経緯等について、山崎光悦氏(自然科学研究科教授・学長補佐)から、本学の教育研究組織の改組に係るフレーム作りに大きな役割を果たされている中で、直面した課題など具体的な経験にもとづいたお話を、高田重男氏(医学系研究科教授)から、医学系において講座制が果たしてきた機能やその課題などについて、古畑徹氏(共通教育機構長)から、大学組織のあり方を議論する際に論点の一つにあがってくる教養教育の実施組織の問題について、本学の例をもとに紹介がなされ、また渡辺達雄氏(大学教育開発・支援センター)から、全国アンケート調査にもとづき、日本における組織改革の動向についての報告がなされます。

皆様の積極的な参加をお願い致します。

(文責：評価システム研究部門 渡辺達雄)

第3回専門分野別教育開発セミナーのご案内

テーマ：「科学リテラシーと理系導入教育」

日時：12月10日(日)13時30分～17時30分

場所：金沢大学サテライトプラザ3階集会室

対象：本学教員、北陸地区大学教員、高校教員、一般

(講演者については、まもなくお知らせいたします。)

本セミナーでは、近年の学生の学力、学習履歴の多様化にいかに対応するかについて、理系基礎科目高校未履修者に対する理系基礎科目のカリキュラム整備およびそれと連動する基礎科目の内容再編の必要性の有無、文系学生に対する理系科目履修など、他大学のカリキュラム整備の事例と本学の教育実践とを対比させた上で、議論したいと思っております。

